



請願第5号

2025年 4月 4 日

山崎小学校はじめ新たな学校づくり計画(案)の見直しを求める請願

町田市教育委員会教育長 様

住 所 [REDACTED]
連絡先 [REDACTED]
氏 名 [REDACTED]

(請願の要旨)

山崎小学校はじめ、新たな学校づくりの見直しを求めるます

(請願の理由)

私にはこの3月まで、山崎小学校に通っていた娘がおります。娘がコロナ禍で小学校生活が一変した最中、自宅のポストに町田市の新たな学校づくりに関するリーフレットが配布されてきました。当時私は闘病中だったこともあり、リーフレットの内容はざっと目を通して、娘の小学校生活には大きく影響しないだろうことに安心して、その場は終わりました。何故なら生き延びる為の治療で頭がいっぱいな上に、感染症対策で一変した娘の小学校生活が毎日どうなるかで頭がいっぱいでした。それでも頭の片隅ではこの統廃合計画に学校生活が影響を受けるお子さんを持つご家庭のことは気に掛かっておりました。

時を経て我が家が加入する自治会で2024年度の役員を務めることになりました。その関係で2024年5月18日に開催された忠生地区の小中学校統廃合に関する説明会に参加しました。そこで初めてこの計画が当事者である子どもを持つ保護者や、何より子ども達との合意形成がなされないまま進められていることを知りました。

2023年11月8日付で「忠生地区小中学校統廃合に関するお願い」という要望書に対しての町田市からの回答という趣旨でした。詳しく説明を聞く中で、1番驚いたのはおおむね30分程度の徒歩通学を想定しているのにも関わらず、当時統合先の図師小までの通学路として想定した道を、市側は実際に歩いて検分していなかったということです。文字通り机の上で、平面地図で測っただけで、通学可能と判断したとのこと。山崎小の学区から図師小までは、道は平坦ではありません。そして小学校は1年生から6年生までが通うのです。果たして前年まで幼稚園や保育園に通っていた1年生が、アップダウンの激しい通学路を通うことの安全性は、真剣にどこまで考えられたのでしょうか？両親共に働いていらっしゃるご家庭が多い中で、通学路が長くなることは学童までもが遠くなります。急な体調不良や緊急事のお迎えの負担が大きくなるのは明らかです。また、警視庁から発表された昨年までの5年間の交通事故による死傷者のうち、歩行者の年齢別では小学校1～2年生に当たる7歳が最も多かったということです。通学路が長くなるということは、こうした交通事故のリスクも上がると言えるのではないのでしょうか。学校現場を知っている方はお分かりだと思いますが、今の小学生は本当に忙しい毎日を送っています。高学年になると教科担任制の教科が増え、教室移動も増えます。娘の小学校までの通学時間は15分くらいでしたが、それでも毎日帰宅すると疲

れ果てています。これが猛暑の夏もゲリラ豪雨の日も 30 分の通学時間が重い荷物を持って毎日だとすると、子ども達の生活は一体どうなるのでしょうか？現状でもギリギリな毎日を過ごしているお子さんは、学校から脚が遠のくのではないのでしょうか？義務教育の小中学校生活で、このような状況を生んで良いのでしょうか？統廃合で直に影響を受けるのは子ども達です。その影響は長い人生に亘って続きます。

夫は原小学校の卒業生です。今はもう原小学校は名前が変わって本町田小学校ですが、卒業から四半世紀以上経っているのに、未だに校歌を誦じます。校舎が残った旧原小学校も新たな学校づくり推進計画では、無くなってしまうことに寂しさを感じています。幾分情緒的な意見を述べてしまいましたが、私が 1 番問題だと思うのは転入人口が多い町田市で、このまま学校統廃合を進めて、どの地区も小中学校に通いにくい状況にできてしまっていて、『子育ての町田市』と謳って良いのでしょうか？子育て世代に魅力的な自治体に見えるのでしょうか？こう思う理由は、私が市内で転居した時に 1 番最初に調べたのは、子どもの学校についてだったからです。全ての学校を現状のまま残すのが現実的でないとしても、今のまま計画ありきで拙速に進めるのではなく、立ち止まって計画のあらゆる方向から見直していただきたいと思います。